

## タイ国・高等教育機関における「国際プログラム」の概況

森 康 眞\*

**An Overview of *International Programs* in Thai Higher Education**

Yasumasa MORI \*\*

**要旨**

本稿の目的は、タイ国・高等教育機関における「国際プログラム」の現状を報告することである。国際プログラムの導入・展開には、1)英語(外国語)による高等教育に対する国内タイ人学生の需要に応える必要があったこと、2)質保証・内外の公的機関による教育機関の認証評価を視野に含めて、教育の質的内容を国際的水準に引き上げること、3)外国との学術交流を促進させながら、外国人留学生の受入を推進させることを受けて、タイの高等教育機関自体の国際化・高等教育内容の国際化を図る狙いととも、その国際的地位を確立する戦略が込められていると言われる。国際プログラムを設置する機関数(2012年度)は、60機関(国立大学・36校/私立大学・24校)で、高等教育機関数全体(171機関)の37.9%(約4割)を示した。国際プログラムの開講数は、1,017プログラムで、学士課程・344/修士課程・394/博士課程・249/その他・30となっている。46機関・116プログラムでは、共同学位制度も取り入れられ、国際プログラムの新たな動向となっている。

**キーワード**

国際プログラム 高等教育機関 外国人留学生 スーパーパトゥム大学 留学交流

**Abstract**

The purpose of this paper is to report on the general situation of International Programs (IPs) in higher education institutions in Thailand. Setting up IPs in those institutions aimed at establishing their international position under 1) a necessity to respond to the demand for English language higher education by Thai students, 2) raising content quality of higher education to international standards, including from the viewpoints of quality assurance and accreditation

\* もり やすまさ:

スーパトゥム大学バーンケン本校国際言語文化研究所(海外協定校)准教授(2014.6.4受理)

\*\* Assistant Professor, International Institute of Languages and Cultures, Sripatum University

by national and international organizations and 3) advancement to accept foreign students by promoting academic exchanges with foreign countries. The number of institutions to set up IPs in the 2012 fiscal year was 60 (36 public, 24 private), comprising 37.9% of the total of 171 higher education institutions. The total number of IPs amounted to 1,017 and included 344 bachelors, 394 masters, 259 doctoral and 30 programs for other certificates. There is also a new trend to incorporate collaborative degrees in 116 IPs at 46 institutions

### Key words

international program higher education institutions foreign students  
Sripatum University student exchange

## I はじめに

国際プログラム (international program) は、通常、「母語以外の外国語を教授・学習媒介語とする外国語プログラム」と言われている。タイ王国(以下、タイ)の高等教育機関では、一部の大学等で「中国語プログラム」や「タイ語・英語によるバイリンガル・プログラム」も見られるが、国際プログラムは、主に「英語プログラム」を指すものとして、国語(公用語)である「タイ語による教育課程 (Thai program)」と対等に位置付けられる「英語による教育課程 (English program)」であると理解されている。タイ国内の高等教育機関における国際プログラムは、タイ教育省による教育政策である「第1次15年 (1990-2004) 長期高等教育計画 (the first 15-year long range plan on higher education)」において、国際プログラムの導入及び推進が提言(鈴木・カンピラパーブ2010:58)されて以来、積極的に展開されてきた。表1は、タイの高等教育機関における国際プログラム数の推移を示しているが、2008年の大学院博士課程が2007年より減数した以外、全体として、着実な増加傾向にあると言える。

表1 タイ・高等教育機関における国際プログラム数の推移 (2004-2012年)

	学士課程	修士課程	博士課程	その他	合計
2004年	153	203	109	0	465
2005年	176	217	127	0	520
2006年	241	290	178	18	727
2007年	277	327	220	20	844
2008年	296	350	215	23	884
2010年	342	389	225	25	981
2012年	344	394	249	30	1,017

出所) 2004・2005年は、Sinhaneti (2011), p.379より、2006年以降は、OHEC (2013a), p.14より引用。

国際プログラムの設置形態には、学部内並存型とタイ語・教育課程を主体とする学部組織と並立させる並置型の二つが見られ、後者の場合は、国際課程 (international college) と称されるようである。言わば、タイ語・教育課程の複数学部から構成される総合大学に加えて、英語・教育課程のみの単科大学 (college) を併設しているという考え方によるものと思われる。

タイにおける国際プログラムの導入及び展開は、1) 英語による高等教育に対するタイ人学生の需要に応える必要があったこと、2) 質保証 (quality assurance) 及び国内外の公的機関による教育機関の認証評価 (accreditation) を視野に入れつつ、教育の質的内容を国際的水準又は世界標準に引き上げること、3) 外国との学術交流を促進させながら、外国人留学生の受け入れを積極的に推進させることで、タイの高等教育機関自体の国際化及び高等教育内容の国際化を図る狙いととも、その国際的地位を確立する戦略が込められていると解される (鈴木・カンピラパーブ2010:58)。国際プログラムの展開と外国人留学生の受け入れ拡大の方針は、現在の「第2次15年 (2008-2022) 長期高等教育計画」や「第11次 (2012-2016) 高等教育開発計画 (the 11th higher education development plan)」においても掲げられている (Kanvong:6)。

2012年度における国際プログラム開講数は、全体で1,017で、課程別で見ると、学士課程・344 (33.8%)、大学院修士課程・394 (38.7%)、同博士課程・249 (24.5%)、その他 (履修証明や単位取得証明)・30 (3.0%) となっており、643 (63.2%) が大学院課程のプログラムで占められている。国際プログラムは、国立・私立を合わせて、60機関に設置されている。(OHEC2013a:13)。

## II タイ・高等教育機関の概要

タイの高等教育機関の全体数は、171機関となっている (OHEC2013:5)。171機関の内訳は、1) 国立大学 (public university)・80機関、2) 私立高等教育機関 (private higher education institution)・71機関、3) 地域短期大学 (community college)・20機関である (OHEC2013a:231-247)。1) の国立大学及び2) の私立高等教育機関は、更に以下の通りに種別される。1) の国立大学は、政府・教育省が所轄する政府立である国立大学 (state university)・14校、管理・運営面での自主・自律性が尊重されている独立行政法人格の国立自治大学 (autonomous university)・15校、師範学校・教員養成大学を母体とし、地域総合大学に改組・昇格され、現在の名称となっている国立ラチャパット大学 (Rajabhat University ※Rajabhatは臣民を意味する)・40校、職業技術専門学校を前身とするラチャモンコン (Ratchamongkolはタイ語発音表記) 工科大学 (Rajamangala University of Technology ※Rajamangalaはサンスクリット語源の英字表記)・9校、放送・通信制教育等の遠隔学習を取り入れている国立公開大学 (open university)・2校の5形態に区分される。2) の私立高等教育機関の区分については、私立総合大学 (private university)・38校、私立学院 (private institute)・9校、私立単科大学 (private college)・24校の3形態に類別される。3) の地域短期大学は、教育省・高等教育委員会に統轄されている、準

学士課程を設置する国立地域短期大学である。

高等教育機関の機関数で見ると、国立機関・100校／私立機関・71機関で、地域短期大学・20校を除けば、国立大学・80校で、国立大学と私立大学の機関数に大差は見られないものの、学生の在籍数全体・2,027,882名（2008年度）で見ると、国立機関・1,735,352名／私立機関・292,530名で、私立機関の占める在籍比率は、僅か14.4%となっている。尚、国立機関に含まれる国立公開大学・2校の在籍学生数が519,352名で、国立機関全体の29.9%、即ち、約3割を占めている点には留意が必要であると思われる（高等教育委員会事務局ウェブページ）。高等教育機関における2009年度の就学率は、45.0%である（教育省教育審議会事務局2012:p.37）。

高等教育機関における外国人留学生の受け入れ（inbound mobile students）数は、2011年度の統計値によれば、130カ国・20,309名（男性・10,921名／女性・9,388名）となっている（表2参照）。日本人留学生数は、345名で、比率では、1.71%と少ないものの、順位では、第10位を占めている。外国人留学生を受け入れている機関数は、103機関（国立・64機関／私立・39機関）で、高等教育機関数全体の60.2%に該当する（高等教育委員会事務局2013:7,14,18）。外国人留学生が専攻する学問分野は、675分野（含N/A）に亘っている（同上:205）。

表2 タイ・高等教育機関の外国人留学生の受け入れ数の推移（2008-2011年）

	2008年	2009年	2010年	2011年
外国人留学生数	16,361 (403)	19,052 (402)	20,115 (394)	20,309 (345)
受入国数	121	124	133	130
受入機関数	96	103	103	103

※括弧内の数字は、日本人留学生数を示す。

出所）高等教育委員会事務局（2008,2010,2011a,2013）より筆者作成。

外国人留学生総数には、タイ語による教育課程と英語を主体とする国際課程にそれぞれ在籍する外国人学生が含まれているが、国際課程に在籍する外国人留学生数は、11,754名（表4・表5参照）で、全体の57.9%の比率となり、約6割を占めていると推定される。

表3 地域別・機関主体別に見たタイ高等教育機関数

地域	機関主体別	機関数	合計（国立/私立）
中部 (25県・バンコク都)	国立大学	5 (5)	39 (65.0%) (20/19)
	国立自治大学	7 (4)	
	国立ラチャパット大学	5 (3)	
	国立ラチャモンコン工科大学	2 (1)	
	国立公開大学	1 (1)	
	私立大学	19 (9)	

タイ国・高等教育機関における「国際プログラム」の概況

北部 (20県)	国立大学	2	8 (13.3%) (7 / 1)
	国立自治大学	1	
	国立ラチャパット大学	3	
	国立ラチャモンコン工科大学	1	
	私立大学	1	
東北部 (17県)	国立大学	2	6 (10.0%) (5 / 1)
	国立自治大学	1	
	国立ラチャパット大学	2	
	私立大学	1	
南部 (14県)	国立大学	1	7 (11.7%) (4 / 3)
	国立自治大学	1	
	国立ラチャパット大学	2	
	私立大学	3	
全県 (77県)	国立 / 私立	36 / 24	60 (100%)

※機関数の括弧内の数字は、バンコク首都府に所在する機関数を示す。  
出所) OHEC (2013a) , pp.231-245及び早川 (2012) , p.2より筆者作成。

国際プログラムを設置する機関数は、国立・36校、私立・24校で、合わせて、60校となり、6対4の比率となっている。地域短期大学・20校を除いた高等教育機関数全体(151機関)で見ると、39.7%の割合を示し、国立・23.8%、私立・15.9%となり、国際プログラムの設置率は、4割程度であると言えよう。国際プログラムの設置状況については、表3で示されている通り、タイ全域に設置されているが、北部・東北部・南部の3地域の10%台と比較して、65.0%が中部地域に集中している。この内、59.0%の約6割がバンコク首都府に所在する機関となっている。私立高等教育機関では、私立機関数全体の約8割となる79.2%が中部地域に集中し、中部地域の半数に近い47.4%が首都バンコクに設置されている。

### Ⅲ 国立大学の国際プログラム

国立自治大学・国立ラチャパット大学・国立ラチャモンコン大学を合わせた国立大学における国際プログラムの設置機関数は、36校で、プログラム開講数は、737プログラムとなっている(OHEC2013a:13)。737のプログラム数の内訳は、学位課程別で見ると、それぞれ、学士課程(130専門分野)・191(25.9%)、大学院修士課程(248専門分野)・308(41.8%)、同博士課程(167専門分野)・217(29.4%)、その他(21専門分野)・21(2.9%)となっている(OHEC2013a:200-204,208,209-215,218,219-223)。国立大学における国際プログラムの特徴は、大学院修士課程が41.8%で最多で、修士・博士課程の合計で見ると、71.2%を占め、且つ、博士課程も学士課程よりも若干高い割合を示している故、学士課程よりも大学院課程に比重が置かれていると指摘できる。加えて、専門分野(discipline)数においても、修

士・博士課程を合わせた大学院課程で、415分野に及び、学士課程の3倍強の分野数を示している。

表4 国立高等教育機関の国際プログラムに在籍する外国人留学生数

国立高等教育機関種別	該当機関数	外国人留学生数
国立大学	10校 (11校)	2,472名
国立自治大学	10校 (11校)	2,280名
国立ラチャパット大学	9校 (11校)	1,041名
国立ラチャモンコン工科大学	3校	33名
合計	32校 (36校)	5,826名

出所) OHEC (2013a) より筆者作成。該当機関数が括弧内より少ないのは、データ未記入の為である。

外国人留学生の在籍機関は、国立大学・国立自治大学・国立ラチャパット大学で、それぞれ同数の11校であるが、外国人留学生の在籍者数では、国立大学が2,472名の最多を示している (表4 参照)。

#### Ⅳ 私立大学の国際プログラム

私立総合大学・私立単科大学・私立学院を合わせた私立大学における国際プログラムの設置機関数は、24校で、プログラムの開講数は、280プログラムとなっている (OHEC2013a:13)。280のプログラム数の内訳は、学位課程別で見ると、それぞれ、学士課程 (100専門分野)・153 (54.7%)、大学院修士課程 (63専門分野)・86 (30.7%)、同博士課程 (28専門分野)・32 (11.4%)、その他 (7専門分野)・9 (3.2%) となっている (OHEC2013a:200,205-207,208,216-217,224)。私立大学における国際プログラムの特徴は、学士課程が過半数を超える54.7%で最多を占め、国立大学の約2倍となっている点である。私立大学の国際プログラムは、3の国立大学の国際プログラムと比べて、大学院課程よりも学部・学士課程の方が中心になっていると言える。しかしながら、専門分野数においては、学士課程・100分野/大学院課程・91分野で、学士課程が僅かに多いという程度である。

表5 私立高等教育機関の国際プログラムにおける外国人留学生数

私立高等教育機関種別	該当機関数	外国人留学生数
私立総合大学	20校	5,797名
私立単科大学	3校	119名
私立大学院大学	1校	12名
合計	24校	5,928名

出所) OHEC (2013) より筆者作成。

外国人留学生の在籍機関では、私立総合大学・20校で、私立高等教育機関全体の83.3%

を占め、外国人留学生の在籍者数で見ても、私立総合大学が5,797名で最多を占め、97.8%を示している。私立総合大学・私立単科大学・私立学院のそれぞれの機関数は異なるにせよ、国際プログラムを設置する私立総合大学は、私学機関全体の中で、文字通り、中心的役割を担っていると考えられる。

## V 私立スリーパトゥム大学における国際プログラム

筆者が所属するスリーパトゥム大学バーンケン本校 (Sripatum University, Bangkok main campus:SPU,1970年設立) の国際プログラム (Sripatum International College: SIC) を事例として取り上げ、以下に詳述することとしたい。

私立総合大学であるスリーパトゥム大学の国際プログラムは、タイ語・教育課程による学部組織と並置されている国際課程 (international college) として設置されている。SICの国際プログラムは、「The Path to A Global Network (世界的ネットワークへの道)」を行動指針 (motto) として掲げているが、同指針には、アジア地域における急速なグローバル・ビジネスの展開に即応するべく、自らのキャリア・パス (職務・職歴の計画的実現) における能力・技能を最大限に開発するという設立の精神が込められている。国際課程の理念 (philosophy) は、自己実現の探求及び生産的・創造的潜在能力の実現を全ての人のびとに対する教育の重要な起源として捉えるとともに、同課程の方向性 (vision) は、新世代又は次世代に向けてのタイにおける先導的ビジネス・カレッジとして、スリーパトゥム国際課程 (SIC) を確立することを具体的目標に据えている (スリーパトゥム大学国際課程ウェブページ参照)。

2014年5月現在、同大学の国際課程には、1) 国際ホスピタリティ管理運営 [International Hospitality Management] (経営学士: B.B.A.)、2) 国際ビジネスコミュニケーション [International Business Communication] (文学士: B.A.)、3) 英語・中国語ビジネスコミュニケーション [English and Chinese for Business Communication] (文学士: B.A.)、4) メディア／マーケティング・コミュニケーション [Media and Marketing Communication] (文学士: B.A.)、5) 物流・供給連鎖管理 [Logistics and Supply Chain Management] (経営学士: B.B.A.)、6) 航空ビジネス [Airline Business] (経営学士: B.B.A.) の6専攻 (学士学位) を有する6つの国際プログラムが開設されている。国際課程に在籍する学生総数 (2014年3月現在) は、100名で、タイ人学生・24名、外国人留学生数・76名の構成となっている。外国人留学生の国別の構成は、それぞれ、ギリシャ共和国、トルコ共和国、コートジボワール共和国、カメルーン共和国、ブラジル連邦共和国、チリ共和国、パキスタン・イスラム共和国、カンボジア王国、フィリピン共和国、ベトナム社会主義共和国、中華人民共和国、日本の12カ国となっている。国際的な教室環境と言える国際プログラムであると思われる。

卒業必修単位数は、合計136単位で、履修体系は、1) 一般教養科目 (30単位) — 人文社会学 (12単位) / 言語コミュニケーション (9単位) / 数学・科学 (9単位)、2) 専門科目 (100単位) — ビジネス科目 (45単位) / 専攻必修科目 (40単位) / 専攻選択必修科目 (15単位)、3) 自由選択科目 (6単位) の3つを柱としている (附表参照)。2) の

専門科目における専攻選択必修科目は、必修外国語科目とされ、中国語、フランス語、ドイツ語、日本語、スペイン語、タイ語、ベトナム語から一つの言語を選択履修すると定められている。尚、2015年度のASEAN経済共同体（ASEAN Economic Community: AEC）の発足に向けて、タイ国内の各大学には、2014年度よりASEAN学年暦が採用され、8-12月（1学期）・1-5月（2学期）・6-7月（夏学期）の3学期制が新たに導入された。

スィーパトゥム大学が締結した外国の高等教育機関との学術交流協定（memorandum of understanding: MOU）数は、50機関で、2013年に締結された大阪国際大学（Osaka International University: OIU,1988年設立）との交流協定を含め、日本国内の大学・6校と交流協定を締結している（1校は2014年度中に締結予定）。中国南西部の貴州大学（Guizhou University）との学術協定書では、複数学位（dual degree）の取得が可能な国際的な教育課程となっている。

## Ⅵ 終わりに

国際プログラムの質・量的充実化には、高等教育機関の国際化を推進する枠組みと同様に、1）外国語能力の向上（language development）、2）情報通信科学技術の開発（information communication technology development）、3）国際的教育課程（international curriculum）、4）学生の国際間移動（student mobility）、5）教員啓発活動（faculty development）、6）国際協力・連携・提携機関（international partnerships）、7）運営・業務活動の組織化・制度化（institutionalization）等が求められていることは言うまでもない（OHEC2013b:3）。これらは、端的に言えば、1）学生・教員・職員に関わる人事面、2）管理・運営・業務に関わる学内の組織活動面、3）国際的参加・活動に関わる国際交流面の充実化ということになる。

この内、ここでは、3）の国際交流面について言及したい。国際プログラムの活用・活性には、タイ人留学生・外国人留学生の国際間移動に繋がる留学生の派遣・受入を促進する留学交流を図ることが求められる。留学交流を推進する鍵は、1）外国の高等教育機関等との学術交流協定の締結、2）地域的又は国際的な高等教育機関のネットワーク及びコンソーシアム（国際的大学間連携）への参加・加盟、にあると思われる。1）については、交流協定に基づく交換留学制度や共同学位（joint program, joint degree, double degree）制度も挙げられよう。タイの高等教育機関が締結した学術協定数（2006-2008年度）は、2,534件で、国立大学・2,171件（46機関）／私立大学・363件（18機関）であった（高等教育委員会事務局2011b:3,24）。因みに、日本との協定締結数は、407件で、第1位を占めたとともに、国立大学においても、372件で第1位を占めた（森2012:62）。私立大学は、35件の第3位を占めた（高等教育委員会事務局2011b:5,25）。交流協定に依拠する学生間の交換留学制度の実績（2006-2008年度）は、国立大学・7,342名／私立大学・1,389名であった（同上:12,29）。2）の高等教育機関のネットワークは、学生の国際間移動に伴う単位互換制度と関連するとともに、単位相互認定には、国際的な質保証の枠組みとも関係すると指摘されている。タイが位置する東南アジア地域における高等教育分野のネットワークは、

工学系分野を中心として、且つ、日本の大学とも連携しているASEAN大学ネットワーク(ASEAN University Network: AUN, 2003年発足)、東南アジア教育大臣機構・高等教育開発センター(Southeast Asian Ministers of Education Organization-Regional Institute for Higher Education and Development: SEAMEO-RIHED, 1993年設立)等があり、それぞれの事務局も首都バンコクに置かれている。更にアジア地域に拡大すれば、環太平洋大学協会(Association of Pacific Rim University: APRU, 1997年設立)、アジア・太平洋大学交流機構(University Mobility in Asia and the Pacific: UMAP, 1991年設立)、UMAP単位互換制度(UMAP Credit Transfer System: UCTS, 1999年開始)、アジア・太平洋地域質保証ネットワーク(Asia-Pacific Quality Network: APQN, 2003年発足)等の地域的・国際的ネットワークが見られる。こうした多種に亘る国際的活動の成果に関連して言えば、国際プログラムにおける共同学位(collaborative degree)制度も新たな特徴の一つであると思われる。タイの高等教育機関による諸外国との共同学位制度を取り入れた国際プログラム数は、2009年・61、2010年・63、2011年・94、2012年・116で、増加傾向を示している(OHEC2012:138)。国際プログラム開講数全体から見れば、僅か11.4%にしか過ぎないのに対して、国際プログラム設置機関数で見ると、76.7%に該当する46機関(国立大学・31機関/私立大学・15機関)が国際的共同学位制度を取り入れている。何れにせよ、タイ・高等教育機関における国際プログラムの動向は、外国教育機関との学术交流(学生交流・教員交流・教育交流・研究交流・文化交流・情報交流等々)活動や東南アジア地域内・アジア・太平洋圏内・国際間の協力・連携・提携活動と連動しつつ、展開・拡大されていくものと推測される。

最後に、筆者は、タイ・高等教育機関における国際プログラムの現状について、多角的な詳述を心がけるようにした。本稿がタイ・高等教育事情への理解を深める一助になれば、幸いであるとともに、タイ・日本の高等教育機関間の教育・研究を通じての国際交流や学生相互交流プログラムによる留学交流がより一層展開・発展することを願って、本稿の結びに代えたい。

附記：私立スィーパトゥム大学バーンケン本校(以下、本学)並びに私立大阪国際大学は、2013年4月23日(火)に学术交流協定を締結しました。大学間学術協定の基本的枠組みである覚書を交わす署名式は、タイ側の本学で行われ、宮本郁夫・副学長、並びに、田中さゆり・国際交流課長(国際交流センター)のご両名様のご来臨を賜りました。本稿は、研究交流又は教員交流の一環として、成稿したものであります。貴校の紀要に掲載していただける機会を与えてくださいましたことに感謝を申し上げます。学生を主体とする教育交流や教員を中心とする研究交流を含めて、両学の国際交流が進展・発展するべく、鋭意努力する所存であります。尚、筆者は、日本の教育機関や国際教育関係者向けに本学における「国際プログラム」「日本人大学生受け入れプログラム」「日本語教育交流活動」「学術・研究活動」等の内容を紹介する日本語版ウェブサイトを管理・運営しております。以下のURLをご覧ください。<<http://spujanese.jimdo.com/>>

参考文献

[邦語]

鈴木康郎・カンピラパーブ スネート (2010) 「アジアの高等教育事情ダイナミック・アジア—⑧  
高等教育の高等化とASEAN統合に向けた国際的地位の向上を目指して タイの高等教育戦略」  
『リクルート・カレッジマネジメント』第64号、pp.56-59、

<[http://souken.shingakunet.com/college\\_m/2010\\_RCM164\\_56.pdf](http://souken.shingakunet.com/college_m/2010_RCM164_56.pdf)>2014年5月24日参照

早川和伸 (2012) 「第2章 タイの経済地理データ」熊谷聡編『東アジア経済地理のデータセットの  
作成と分析』調査研究報告書アジア経済研究所、pp.1-3、

<[http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Report/2011/pdf/206\\_ch2.pdf](http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Report/2011/pdf/206_ch2.pdf)>2014年5月  
29日参照

森康眞 (2012) 「タイ国スイーバトゥム大学における国際広報室の現状と課題：本学の交換留学制度を  
事例として」東大阪大学アジアこども学科『ASIA—社会・経済・文化』第2号、pp.61-74

[英文]

Bureau of International Cooperation Strategy, Office of the Higher Education Commission [OHEC]  
(2012). *Collaborative Degree Programmes between Thai and Foreign Higher Education  
Institutions 2012*. Retrieved May 31, 2014, from  
[http://inter.mua.go.th/main2/files/file/aimmy%2056/collaborative%20degree%20program%20  
2012%20-8.pdf](http://inter.mua.go.th/main2/files/file/aimmy%2056/collaborative%20degree%20program%202012%20-8.pdf)

[OHEC]

(2013a). *Study in Thailand 2012*. Retrieved May 23, 2014, from  
<http://inter.mua.go.th/main2/article.php?id=301>

[OHEC]

(2013b). *Creating an Internationalization Framework: A Manual for Thai Colleges and  
Universities*. Retrieved June 1, 2014, from  
[http://inter.mua.go.th/main2/files/file/MANUAL\\_Creating%20an%20Internationalization%20  
Framework.pdf](http://inter.mua.go.th/main2/files/file/MANUAL_Creating%20an%20Internationalization%20Framework.pdf)

Kanvong, A. (n.d.). *Proficiency in English a Key to Human Resource Development for ASEAN*.  
Retrieved May 25, 2014, from

[http://www.britishcouncil.or.th/sites/britishcouncil.th/files/khun\\_aporn\\_0.pdf](http://www.britishcouncil.or.th/sites/britishcouncil.th/files/khun_aporn_0.pdf)

Sinhaneti, K. (2011). Emerging Trends of Thai Higher Education and a Case Study of Shinawatra  
University in Coping With Global Challenges, *US-China Education Review B* 3, pp.370-381.

Retrieved May 25, 2014, from <http://files.eric.ed.gov/fulltext/ED524887.pdf>

Sripatum International College, Sripatum University.

Retrieved May 23 2014, from <http://www.spu.ac.th/intl/>

[タイ語]

สำนักงานคณะกรรมการการอุดมศึกษา [高等教育委員会事務局] สถาบันอุดมศึกษาในสังกัด สกอ (172 แห่ง)  
[OHECが所管する高等教育機関 (172機関)],

<<http://www.mua.go.th/university.html>>2014年5月26日参照

\_\_\_\_\_ (2008). นักศึกษาต่างชาติที่ศึกษาใน  
สถาบันอุดมศึกษา สังกัดสำนักงานคณะกรรมการการอุดมศึกษา ปีการศึกษา 2551 [高等教育委員会事務局  
所管の高等教育機関に在籍する外国人学生 仏暦2551年度]

\_\_\_\_\_ (2010). นักศึกษาต่างชาติที่ศึกษาใน  
สถาบันอุดมศึกษา สังกัดสำนักงานคณะกรรมการการอุดมศึกษา ปีการศึกษา 2552 [高等教育委員会事務局  
所管の高等教育機関に在籍する外国人学生 仏暦2552年度]

\_\_\_\_\_ (2011a). นักศึกษาต่างชาติที่ศึกษาใน  
สถาบันอุดมศึกษา สังกัดสำนักงานคณะกรรมการการอุดมศึกษา ปีการศึกษา 2553 [高等教育委員会事務局  
所管の高等教育機関に在籍する外国人学生 仏暦2553年度]

\_\_\_\_\_ (2011b). ความร่วมมือทางวิชาการ

タイ国・高等教育機関における「国際プログラム」の概況

ระหว่างสถาบันอุดมศึกษาไทยกับสถาบันอุดมศึกษา/หน่วยงานต่างประเทศ [タイ高等教育機関と外国の高等教育機関／研究機関との学術協力]

\_\_\_\_\_ (2013). นักศึกษาต่างชาติที่ศึกษาในสถาบันอุดมศึกษา สังกัดสำนักงานคณะกรรมการการอุดมศึกษา ปีการศึกษา 2554 [高等教育委員会事務局所管の高等教育機関に在籍する外国人学生 仏暦2554年度]  
 สำนักงานเลขาธิการสภาการศึกษา กระทรวงศึกษาธิการ [教育省教育審議会事務局] (2012).  
 สภาพการณ์การศึกษา ไทยในเวทีโลก พ.ศ.2555 [国際社会におけるタイ国の教育状況 仏暦2555年]

附表

สวีสปาทอุมม大学 (SIC) ・「国際ビジネスコミュニケーション専攻」の履修科目一覧表

	<b>General Education (30 credits)</b>	26	Negotiations
1	Tools for the Digital Age	27	Public Speaking and Presentation Skills
2	Thai Studies	28	Communication Concepts and Skills
3	Comparative Society and Culture	29	Business Communication Skills
4	General Psychology	30	Organizational Communication
5	Fundamental English	31	Group Dynamics and Team Building
6	Intermediate English	32	Digital Communications Strategies
7	Advanced English	33	Social Media Marketing
8	College Mathematics	34	Cross-Cultural Communications Management
9	Use of Computer Business	35	Integrated Marketing Communications
10	Interdiction to Statistics	36	Communication Ethics
	<b>Specialization (100 credits)</b>	37	Seminar in International Business Communication
11	<b>Business Courses (45 credits) and Major Compulsory Courses (40 credits)</b>	38	Pre-Cooperative Education in International Business Communication
12	Principles of Marketing	39	Cooperative Education in International Business Communication
13	Organization Behavior		<b>Major Elective Language Courses (15 credits)</b>
14	Business Finance	40	Fundamental Thai
15	Principles of Management	41	Pre-Intermediate Thai
16	Introduction to Human Resources Management	42	Intermediate Thai
17	Introduction to Economics	43	Advanced Thai
18	Introduction to Accounting	44	Thai for Business Presentation
19	Management Information Systems		<b>Electives (6 credits)</b>
20	Business Writing	45	Business Reading

国際研究論叢

21	Business Ethics	46	Operations Management
22	Current Issues in ASEAN Trade and Development	47	Small Business Entrepreneurship
23	Introduction to International Business	48	Money and Banking
24	International Marketing	49	International Business Law
25	Asian Cultures and Business Studies	50	Chinese Culture Appreciation

出所) スイーバトゥム大学国際課程 (Sripatum International College) のウェブページより抜粋。表中のNo.40-44 (必修外国語科目) は、タイ語以外の中国語、フランス語、ドイツ語、日本語、スペイン語、ベトナム語に変更可能である。

<<http://www.spu.ac.th/intl/courses/bachelors/international-business-communication/course-description>>2014年5月23日参照